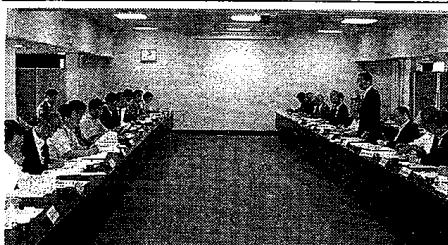


2009/7/9付 建設通信新聞

【JCCA本部】東北整備局との意見交換会の記事が掲載されました



## 省内に低入札 対策追加

### 総合評価5倍の200件に

東北、協見交換  
建整局ら

建設コンサルタント協会（廣谷彰彦会長）と東北地方整備局、東北6県・仙台市との2009年度意見交換会が7日、仙台市内で開かれた=写真。この中で発注は、適切な低価格入札対策の実施や技術力を重視した建設コンサルタント選定の拡充などを要望。これに対し整備局は、7月中に新たな低価格入札対策を講じる考えを示した。また、総合評価落札方式は前年度の約5倍に当たる200件程度で実施するほか、6月からプロポーザル方式などに地域精度度を評価項目に設定していくことを説明した。

田光彦東北地方整備局長は、「公共事業による地域経済の下支え効果を確実に發揮できるよう工事の前倒しども、設計用地ストックについても発注業務を全力で進めている。協会員にも大きな役割を担ってほしい」と語った。

また、同局発注業務で低価格入札が頻発していることに触れ、「新たな品質確保対策が必要」との認識を示した上で「国民に対する良質な社会を提供することがわれわれの使命であり、調査・設計業務の品質確保に向け、積極的な対応をお願いしたい」と要請した。

これを受けて廣谷会長も、「10年以上にわたる公共事業削減に伴い、会員企業の疲弊は著しく、技術の伝承にも困難をきたしている。場合によつては、われわれのビジネスモデルを大きく改革する覚悟を持つて、今後の進むべき方向を検討していきたい」と話した。

議事では、協会から要望・提案のあった①技術力による選定②建設コンサルタントの新たな役割③品質の確保と熙いものの、地域精度度などに

また、同局発注業務で低価格入札が頻発していることに触れ、「新たな品質確保対策が必要」との認識を示した上で「国民に対する良質な社会を提供することがわれわれの使命であり、調査・設計業務の品質確保に向け、積極的な対応をお願いしたい」と要請した。

これを受けて廣谷会長も、「10年以上にわたる公共事業削減に伴い、会員企業の疲弊は著しく、技術の伝承にも困難をきたしている。場合によつては、われわれのビジネスモデルを大きく改革する覚悟を持つて、今後の進むべき方向を検討していきたい」と話した。

議事では、協会から要望・提案のあった①技術力による選定②建設コンサルタントの新たな役割③品質の確保と熙いものの、地域精度度などに

優れた企業を競争に参画させたため、6月から地域要件や地元貢献度、地域精度度を札参加資格、評価項目に設定しているとした。

建設コンサルタントの新たな役割では、協会が発注者支援業務やCM（コンストラクション・マネジメント）、設計・施工一括発注方式に参画するべき仕組みの構築を求めた。

整備局は、発注者支援業務について、今年度は実績要件の大幅な緩和とともに、すべての案件を総合評価一般競争入札で発注したことと説明。

施工段階への設計者参画で、08年度に10件で適用された第三者会議（発注者・設計者・施工者）を、今年度は重複構造物を含むすべての工事に計上する。

一方、三者会議開催に伴う設計者への報酬については、直接人件費と直接経費としており、技術経費などは新たに設計検討が必要となった場合に計上する考えを示した。

建設

に適用するとした。

一方、三者会議開催に伴う設計者への報酬については、直接人件費と直接経費としており、技術経費などは新たに設計検討が必要となった場合に計上する考えを示した。

建設

に適用するとした。

一方、三者会議開催に伴う設計者への報酬については、直接人件費と直接経費としており、技術経費などは新たに設計検討が必要となった場合に計上する考えを示した。

建設

に適用するとした。

建設